

## 資料

# 2024年度性器クラミジア感染症及び淋菌感染症の抗原検査結果概要

本村由佳・上田紗織・片宗千春・カール由起・重村洋明・江藤良樹・芦塚由紀

2024年度に性器クラミジア感染症及び淋菌感染症に係る抗原検査として当所に依頼された検体数は、704 件であった。検査を実施した結果、性器クラミジア抗原陽性数は 703 件中 38 件（陽性率 5.4%）、淋菌抗原陽性数は 702 件中 4 件（陽性率 0.6%）であった。

[キーワード：性器クラミジア感染症、淋菌感染症、抗原検査]

## 1 はじめに

性器クラミジア感染症及び淋菌感染症は、性感染症の中でも患者数が多い疾患である。国が実施する感染症発生動向調査によると、クラミジア感染症は2016年の24,397 件、淋菌感染症は2017年の 8,107 件を境に、患者数は増加傾向にある<sup>1)</sup>。2023年は性器クラミジア感染症 31,270 件、淋菌感染症 9,674 件が報告された。患者数が多い原因のひとつとして無症候性の感染者の存在が指摘されており、本人が感染していることに気づかないまま性交渉を行い相手に感染させ、新たな感染者も感染に気がつかずに、さらに感染を拡大させるという“無症候性感染の連鎖”によって、若者の間で感染が拡大することが懸念されている<sup>2)</sup>。

福岡県では性感染症予防対策の一環として、2004年3月から性器クラミジア感染症について抗体検査を開始した。2013年4月からは、尿を検体とする抗原検査に変更し、性器クラミジア感染症に加えて、淋菌感染症についても実施している。本稿では、2024年度に実施した検査の概要について報告する。

## 2 方法

### 2・1 検体

検査には、2024年4月から 2025年3月に県内 9 保健福祉（環境）事務所で採取した検査希望者 704 名の初尿 2 mL を用いた（性器クラミジア抗原検査 703 件；男性 446 件、女性 230 件、性別不明 3 件、年齢性別不明 24 件、淋菌抗原検査 702 件；男性 446 件、女性 229 件、性別不明 3 件、年齢性別不明 24 件）。

### 2・2 検査項目

初尿中の性器クラミジア抗原及び淋菌抗原について検査を実施した。

### 2・3 試薬及び機器

性器クラミジア抗原検査及び淋菌抗原検査の試薬は、アプティマ Combo2 クラミジア/ゴノレア（ホロジックジャパン株式会社）、機器はパンサーシステム（ホロジックジャパン株式会社）を用いた。

### 2・4 検査方法

尿検体 2 mL をアプティマ STD うがい液・尿採取セットの搬送用チューブに入れ、パンサーシステムを用いて測定した。

## 3 結果・考察

本事業における性器クラミジア抗原検体数・陽性率及び淋菌抗原検体数・陽性率の年次推移を図1、図2 に示す。2020年度から2022年度にかけて検体数は200 件前後で推移していたが、2023年度以降は検体数が約3倍に増加していた。この検体数の変化は、2020年から感染が広まった新型コロナウイルス感染症の影響が一因として考えられた。一方、陽性率については、性器クラミジアは5%前後、淋菌は1%前後で推移しており、2020年度から2024年度で大きな違いは認められなかった。

また、2024年度の性器クラミジア抗原検査及び淋菌抗原検査結果の詳細を表1 に示した。性器クラミジア及び淋菌抗原検査の搬入検体数は 20 歳代が 206 件（男性 126 件、女性 78 件、性別不明 2 件）と最も多く、次いで 30 歳代が 177 件（男性 107 件、女性 69 件、性別不明 1 件）であった。性器クラミジア抗原陽性数は 703 件中 38 件（5.4%）で、内訳は男性 446 件中 18 件（4.0%）、女性 230 件中 20 件（8.7%）であった。淋菌抗原陽性数は 702 件中 4 件（0.6%）で、内訳は男性 446 件中 0 件（0%）、女性 229 件中 4 件（1.7%）であった。男性よりも女性の方が陽性数は多かった（Chi-squared test,  $p < 0.05$ ）。国の感染症発生動向調査の報告によると、性器クラミジアは男性と女性の患者数に大きな違いはないが、淋菌は男性の方が多い<sup>1)</sup>。これは、女性は淋菌の自覚症状に乏しく受診機会

が少ないと考えられている<sup>3)</sup>。今回の結果は、感染を懸念する検査希望者が含まれているため、女性の陽性数が多くなった可能性が考えられた。

## 文献

- 1) 厚生労働省：感染症発生動向調査 性感染症報告数、

<https://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html>

(2025年8月4日アクセス)

- 2) 余田 敬子ら：口咽科 2011 ; 24 : 2 ; 171-177

- 3) 国立感染症研究所：淋菌感染症、

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ra/gonorrhea/010/gonorrh ea.html> (2025年8月4日アクセス)

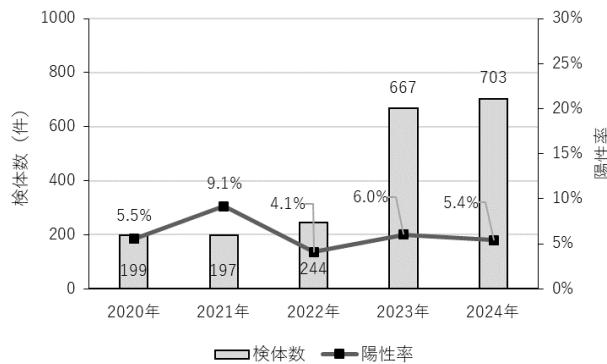


図1 性別性器クラミジア抗原検体数・陽性率

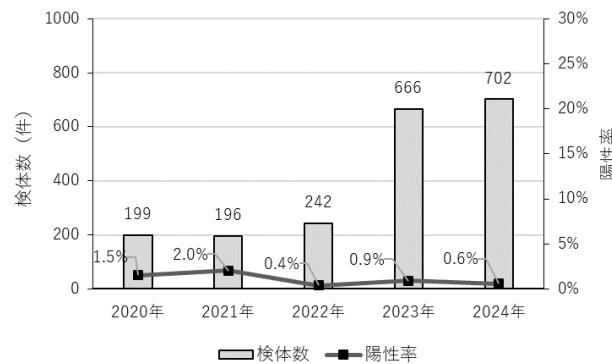


図2 性別淋菌抗原検体数・陽性率

表1 年齢区分別検体数及び抗原陽性数（陽性率）

性別	年齢区分	クラミジア		淋菌	
		検体数	陽性数(陽性率)	検体数	陽性数(陽性率)
男性	～19歳	10	1 (10.0%)	10	0 (0.0%)
	20～29歳	125	8 (6.4%)	125	0 (0.0%)
	30～39歳	107	3 (2.8%)	107	0 (0.0%)
	40～49歳	88	5 (5.7%)	88	0 (0.0%)
	50～59歳	64	0 (0.0%)	64	0 (0.0%)
	60歳～	44	1 (2.3%)	44	0 (0.0%)
	不明	8	0 (0.0%)	8	0 (0.0%)
	小計	446	18 (4.0%)	446	0 (0.0%)
女性	～19歳	12	2 (16.7%)	12	2 (16.7%)
	20～29歳	78	7 (9.0%)	78	2 (2.6%)
	30～39歳	69	3 (4.3%)	69	0 (0.0%)
	40～49歳	44	0 (0.0%)	44	0 (0.0%)
	50～59歳	15	4 (26.7%)	14	0 (0.0%)
	60歳～	5	1 (20.0%)	5	0 (0.0%)
	不明	7	3 (42.9%)	7	0 (0.0%)
	小計	230	20 (8.7%)	229	4 (1.7%)
性別不明	～19歳	0	0	0	0
	20～29歳	2	0 (0.0%)	2	0 (0.0%)
	30～39歳	1	0 (0.0%)	1	0 (0.0%)
	40～49歳	0	0	0	0
	50～59歳	0	0	0	0
	60歳～	0	0	0	0
年齢性別不明	小計	3	0 (0.0%)	3	0 (0.0%)
	計	703	38 (5.4%)	702	4 (0.6%)